

2024年度事業報告書

2025年 3 月 31 日

公益財団法人 日本セーリング連盟

2024年度事業報告

公益財団法人 日本セーリング連盟

経費委員会 委員長 池田 一雄

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	定期表彰	インクルーシブな取り組みを含むセーリング活動の表彰実施	観客を活動の認知度向上	表彰式の開催	2025年1月	Green	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	ガバナンスコード対応	経理・人事の継続的見直し	JSAFの運営、実施体制のルールに関する整備	ガバナンスコード・経理、人事等	2025年1月	Green	
e	レース実行事務の公開・後援検討	JSAF主催・後援レースの検討実施(レースマネージメント委員会と共同)	公開・後援レースの継続性確保、安全確保	公開・後援レースの開催	適年	Green	
h	コンプライアンス研修	会員、特に各団体リーダー向けの研修実施	会員全体のコンプライアンス意識向上	研修の開催	2025年2月	Green	

財政委員会 委員長 池田 一雄

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h,i	1. 適切な支払・支払手続きの遂行	・各専門委員会から目上がつくくる支払・関連の事項の内部確認。 ・事務局と協力して支払、会計処理等に関する事務手続きの標準化と改善。 ・源泉徴収後の確認、添付された証憑の妥当性についての検証を徹底。	公益財団法人に期待されるコントローラシップの維持・向上	各機外部検査における指摘ゼロ	適年	Green	通常の支払手続きについては滞りなく支払チェックを実施。 不備に対しては即座の改善を遂行。
h,i	2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理	・事務局のほか関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に際し、評議会・理事会等への報告の適時性と透明性の確保を向上させる。 ・中期決算や翌年度の概算に基づき各委員会が関連する事業計画の進捗に応じた円滑な予算執行に努める。 ・主要の収支状況についての情報提供を促進。	事業計画に基づいた事業・予算の執行状況のモニタリング強化	評議会・理事会向け報告	適年	Yellow	JSAF主催の財政基盤の確立に向けたアクションの一環として、2025年予算策定に 際して当初予算での赤字を指摘すべく従前のやり方を見直し、具体的に、各委員会 や予算策定時に収支バランスの徹底目標を設定し、複数の委員会が関係する事業に おける収支管理の改善を推進、諸々の改善の存在について継続
h,i	3. 健全な財政基盤の確保	・JSAFとしての経営戦略に基づき、会費・寄付金・賛助金等の収入ソース拡大の検討がなされる中、事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、財政面での管理体制の整備を進める。	公益財団法人に期待されるコントローラシップの維持・向上	管理ツール整備	適年	Yellow	同上
h,i	4. 会計経理業務のガバナンス強化	・事務局における経理会計事務の体制強化を支援し、帳票等の整備を推進させる。 ・公益財団法人に期待される会計・経理業務の確実な実施、信頼性を確保を行う。 ・経理業務の透明化と、承認委員会における契約書締結承認等の確認、支払申請に際して定めた、新たな業務 フローを各委員会に定着させる。	公益財団法人に期待されるコントローラシップの維持・向上	試算表、マニュアル等の整備	適年	Yellow	試算表整備や設計入力等の業務効率的な改善も目指す体制の強化と安定化は進捗するも 継続フォロー。 事務局先選定、契約書締結フローについてはより効率的な運用を目指し継続フォー ロー。 ガバナンスプロジェクトへの参加を通じ総務委員会もガバナンス面でも協働を期待

寄附関係委員会 委員長 下坂 隆

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	JSAF SHOPの運営管理	JSAF SHOP受注品の発送管理、在庫管理、並びにSHOP画像の更新と、登録者へのタイムリーなメッ サージの発信。	JSAFロゴ入りグッズの販売を通して、会員のJSAFへの帰属意識の向上と新規 会員登録の向上を図る。	SHOPの年間売上アップ	年間	Green	対前年比約135%。(2023年度の売り上げは約¥2,300,000)
i	JSAF SHOP販売商品の拡充	販売力あるJSAFロゴ入り商品の開発	顧客からターゲット(JSAF会員+セーリングファン)に対応した新規商品を随時開 発し、売り上げのアップを図る。	年間売上目標 ¥4,000,000(2023年度実績 売上 ¥3,000,000)	年間	Green	目標に対する達成率は約103% (3月2025現在で売り上げ ¥3,100,000)
i	企業コラボ商品の制作	45RPM社以外の新規コラボ先企業の開発	協業に利益の見込まれる提携企業開拓により、安定した利益を確保する。	新規契約企業1社を目標とする。	年間	Red	新規契約企業はなかった。 2025年度は新規契約企業の獲得を目指すこととする。

広報委員会 委員長 伊藤 直

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	JSAF公式ウェブサイト運用	JSAFサーバー公式ウェブサイトの保守管理	JSAF広報業務の遂行(システム管理)	経費削減実現できず		Yellow	
	JSAF公式ウェブサイト運用	JSAFサーバー公式ウェブサイトの保守管理	JSAF広報業務の遂行(サーバ管理)	経費削減実現できず		Yellow	
	JSAF公式ウェブサイト改修	JSAF公式ウェブサイトの改修作業	JSAF広報業務の遂行	進捗なし		Red	
	JSAF公式ウェブサイト改修	JSAF公式ウェブサイトの改修作業	JSAF広報業務の遂行	進捗なし		Red	
	オンライン版J-Sailing	観戦内広報のための新メディア立ち上げ	JSAF広報業務の遂行	進捗なし		Red	事業中止、2025年度実現を目指す
	全事業	観戦広報用コンテンツ拡充	JSAF広報業務の遂行	進捗なし		Red	事業未実施
	デジタルJ-Sailing改修	観行デジタルJ-Sailingの使い勝手向上	JSAF広報業務の遂行	進捗なし		Red	事業未実施、2025年度以降へ延伸
	観戦J-Sailing	観戦J-Sailing(イヤーブック)発刊	JSAF広報業務の遂行	発行	2024年6月、 9月	Green	JSAF賛助会員メルネース引付獲得率向上による、便送料軽減を実現。
	バリエーション対応	バリエーションに向けた特別広報体制の構築	JSAF広報業務の遂行	計画事業の遂行		Green	記者会見、社行会、報告会を含めて、タイムリーな広報活動を実施した。
	JSAF公式SNS運用	JSAF公式SNSからの情報発信	JSAF広報業務の遂行	計画事業の遂行		Red	事業中止(関係者の確保の適用のみ) SNS発信の頻度の向上
	マスメディア対応	スポーツメディアのニュース掲載	JSAF広報業務の遂行	メディア掲載数		Yellow	計画値に到達せず
	全事業	広報委員会業務全般	JSAF広報業務の遂行	委託事業の計画の遂行		Yellow	計画値に到達せず プレスリリースに向けて、広報体制の再構築、観戦広報の取り込み、によるJSAF一押しの推 進し、SNS発信の組織的対応を早急に実現する必要がある。

環境委員会 委員長 大塚 俊樹

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
						Red	
						Green	
						Red	

レディース委員会 委員長 長岡 真智子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
f	チャイルドルーム	E.O.Wチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用回数 20名	2024年5月	Green	本大会での設置が恒例化し、利用できることを条件に運営役員を引き受けるなど、大 いに期待されている様子が見えた。大会がJSAFの主催ではなくなるため、予算確保 の工夫が必要と要われる。
f	チャイルドルーム	滋賀国スポチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用回数 13名	2024年9月	Yellow	施設が狭く、子どもたちにより環境を用意できなかった。選手、役員の実情が高く、 それに応えることはできた。来年度の改善を要望す る。十分な人数と人材を確保してもう一度、利用者の満足度が高い環境とな り、競技場での利用もより、寄せを問うてより目的の達成度の向上に繋がること
f	チャイルドルーム	津波国スポチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用回数 54名	2024年10月	Green	未経験の女性や子どもも参加があり、楽しく体験することで、多くの人にセーリング の楽しさを伝えることができた。
a,c,d,e	WSステアリングザコース	ハンザ体験会	普及促進、女性参画支援	参加者数 30名	2024年6月	Yellow	大会運営前が配慮してこられる場面も見られるようになってきた。確実に女性を取り巻 くセーリング環境の向上に繋がっている。
d,f	生体用品配布	女性が参加する大会で生体用品を配布し、自分の身体への正しい知識や健康への意識を啓発する	女性支援	配布人数 多数	適年	Green	大会運営前が配慮してこられる場面も見られるようになってきた。確実に女性を取り巻 くセーリング環境の向上に繋がっている。
a,d,f	情報交換会	広く会員やヨット関係者を募り、それぞれが抱える課題を共有しその解決につながる情報の意見 交換	女性セーラーを取り巻くセーリング環境の向上インクルーシブなセーリン グへの取り組みの推進	参加者数 現地22名、Zoom28名	2024年2月	Green	活躍中の各名のスピーカーに話を聞きながらセーリングに関わり続けるヒントを伝え ることができた。
h,j	女性リーダー研修	「女性リーダー・ユースキャパシティー研修会」に委員が参加	次世代の継承に向けた組織体制強化、人材育成	他委員への情報共有	2023年10月	Green	委員会内で報告を行い、情報を共有できた。
d,e	マッチングシステム構築	加盟団体、特別加盟団体とのネットワーク作り	中継する学生が継続してセーリアップを続けるための基盤や離職別協会との 連携	15団体17名の登録あり	適年	Yellow	プレスリリースに向けて、広報体制の再構築、観戦広報の取り込み、によるJSAF一押しの推 進し、SNS発信の組織的対応を早急に実現する必要がある。
a,d,f	国スポレディーズ委員会主催講演会	国スポ会場で女性セーラーの健康についての講演会を開催	女性セーラーのエントリーが国内最多の国スポ開催地を利用し、スポー トスクウェア講演会を数回、健康上の問題を解決したり、その会場で実	参加者数 55名	2024年10月	Green	女性の生涯に関わる内容だけでなく、セーリング特有の身体の問題や不調についても 相談ができ、多くのセーラーに問題を抱えている人も、大会と講演会の開催を期待した

アスリート委員会 委員長 菅田 豊

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	オンラインでの講習会の実施	選手の実技力向上(ボートショーでのクルーワーク講座)	トップ選手との交流による知見拡大	参加者200人	2025年3月	Green	オンライン講習会は行えなかったが、ボートショーでのクルーワーク講座を行った。 幅広い年代の方に参加してもらえ、大盛況だった
	各項目、カテゴリーのトップ選手の意見を聴く上 でセーリング界の意識向上、組織改革		アスリートファーストの円滑化レース		2025年3月	Green	オリンピック強化委員会とミーティングを行い、今後各委員会とオリympicがどのよう に開いていくか話し合った。具体的には、2025年中に決めていく
	セーリング選手のための障害予防とヘルスケア	国スポでの講演会実施	医師等からのアドバイス聞き、より良いパフォーマンスに繋げるため	参加者50人	2024年9月	Green	国スポ大会中に講習会を2回実施、選手だけでなくコーチや監督にも参加していた けた

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
E	国際機関ボスト獲得・国際会議派遣	・ World Sailing のミッドサイズ会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を派遣する ・ World Sailing やASAIF における日本のプレゼンス向上	・ 委員の派遣 ・ WS での年次会議及び臨時会議等における課題把握 ・ 土曜議題におけるJSAF その他国内のスポーツホルダーのポジション確認・形成・発信		2024年11月	Green	● World Sailing 年次大会には委員（森田、秋藤、野木、山川）を派遣し、中央委員会長を務めた ● 総会の事項には議題の把握及び対応方針の確認を行い、総会には各委員会に申し渡報告を行い、ワールドセーリングでの議題等に関して情報の共有を行った。 ● ワールドセーリングでは、今までの各関係者委員の功績がCruiser賞として賞賛された（もちろん国際委員会ではなく本人の功績ではあるが、日本のプレゼンスの向上に寄与した内容として記載させていただきます）
E	スポーツ外交		・ セーリング競技の普及及び普及活動を通しての国際性構築	・ 船会長の獲得 ・ コーチ派遣または、選手・コーチの招へいの実現	2024年5月	Green	インドネシア公使からの寄付を受けた、JQ ユース・ユース・女子用セットのインドネシア・インクルーシブ・セーリング競技大会への提供を行った

重点活動	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	JSAF直接下でのアンダーピング委員会設立	医事科学委員会内からJSAFの直接下でアンダーピング委員会を設立する	事業継続のため、今後の人材確保の目的	構成員の確保	可能な限り継続	Green	目標は達成できている。引き続き組織体制を維持・維持・強化するため2回/年の開催を推進する
h	医事科学委員会の情報(イベント)提供	医事科学委員会の情報(イベント)提供	委員内各 各部署の充実	専門部会・各部署・各人	2回/年	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する
i	公認医学(バグメタ)の資格の獲得・取得の促進	公認スポーツバグメタ・公認スポーツディレクター・公認スポーツファーマシー・公認スポーツ栄養士・公認スポーツリハビリテーション・看護資格取得支援の士・SDOへの推薦および革新の手段を推進する	委員の専門性の向上	各資格推薦・取得人数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する
j	競技会における実習生体制の確保	競技会における実習生体制の確保	競技会における実習生体制の確保	派遣人数・指導人数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する
m	オリンピック強化選手への対応・外務等の対応	オリンピック強化選手会との連携	外務・外務等の対応(Line 等による活動を含む)	相談件数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する
n	会費・大会・HOC事業におけるサポート(トレーニングサポート)	会費・大会・HOC事業におけるサポート(トレーニングサポート)	医事科学委員会 各専門部会およびUAD小委員会と連携し、円滑な選手サポートを行う	派遣人数・指導人数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する
h	JSPDスポーツセンター代表者会議	セーリング選抜代表スポーツセンターとして出席	JSPD選抜代表スポーツセンターと連携し、海外での選手サポートを行う	各派遣所および中央競技団体より代表者参加人数(総数約120名)	1回/年 以上	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する
h	アンダーピング委員会	アンダーピング委員会	アンダーピング委員会	アンダーピング委員会の活動	適宜	Green	充分に対応できている
h	JSAF直接下でのアンダーピング委員会設立	JSAF直接下でのアンダーピング委員会設立	事業継続のため、今後の人材確保の目的	構成員の確保	可能な限り継続	Green	構成員の確保ができた
h	アンダーピング委員会の維持	アンダーピング委員会の維持	アンダーピング委員会の維持	人材確保と適切な人員配置	適宜	Green	JADAC協賛の確保ができた
h	アスリートの医療・外傷予防・対策	アスリートの医療・外傷予防・対策	アスリート自身の医療、外傷予防に関する意識の向上	講演会の開催	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する
h	医事科学委員会・トレーニング部会連絡会議	医事科学委員会・トレーニング部会連絡会議	情報共有および連携強化によるトレーニングサポートの充実	トレーニング部会およびオリンピック強化委員会との情報共有	1回/月	Green	トレーニングサポートについて内容や配置の見直し・修正・案件ごとの対応の検討を行うことにより、調整がはかどるがサポートの統一化・強化に向けて取り組んでいる。またトレーニング会がオリンピック強化委員会に所属する選手・スタッフの活動内容の把握に努めており、今後もトレーニング部会との連携強化を図っていく。他競技や各都道府県トレーニング協会との情報共有により、他競技の取り組みを参考にセーリング選抜にトレーニングサポートに活かされた。しかしセーリング活動実施の中心はトレーニング部会が国・県が担当する対応については今後他競技や各都道府県・トレーニング協会との必要とする協力関係の構築が必要であると考えられ今後への課題あり
h	JSPDアレクシック・トレーニング代表者連絡会議	セーリング選抜代表・トレーニングとしての出席	JSPD選抜代表・トレーニングとしての出席	各派遣所および中央競技団体より代表者参加人数(総数約120名) JSAF・トレーニングの連携あり	2025/3月実施	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する

西スポーツ大会委員会 委員長 黒川 勇男									
実行地区	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等		
Ⅱ地区	国民体育大会開催事業	・中央競技団体の派遣 ・各地主体団体の誘致・協議 ・参加種、運営種の見直し等の推進 ・一般の認知・関心の向上に向けた「見える団体・見せる団体」推進 ・開催地でセーリングスポーツの普及推進	・円滑な団体運営への開催地支援 ・一般の認知・関心の向上 ・開催地におけるセーリング競技の普及	参加選手、監督数 550人 中央競技役員派遣 30人	2023年10月	green	参加種 331種 参加選手、監督数 545人 選手への競技役員派遣 30人 リトリート大会へ派遣役員派遣 25人 課題：2024年のSAGA選手が国民スポーツ大会として1の目標となる。セーリング競技を、一般観客に対してより見やすく、「ふり分けがやりやすく」アピールすることが必要である。また、よUVを推進の必要がある。		
	国民スポーツ大会開催準備支援事業	・円滑な大会運営を目的とした団体委員会開催 ・開催自治体及び県との調整・指導 ・県スポーツ連合等の中央競技団体とは関係及び指導、助言 ・開催予定地の国・県・市町村との協議 ・開催予定地の行政・セーリング関係者による団体研修会の開催	・円滑な国・県・市町村間の開催地支援 ・国・県・市町村関係者による開催地の選定 ・国・県・市町村関係者による大会品目の確保	団体委員会開催 2回 団体研修会 1回 中央競技団体研修会 1回	2023年4月～ 2024年3月	green	国・県・市町村委員会開催 2回(2023.6.18、2024.1.28) 国・県・市町村大会 回(2024.1.28) 中央競技団体研修会 1回(2024.3.18) 中央競技団体自治体及び県との調整・協議年を達成して適宜実施 2024年開催自治体及び県との調整・協議年を達成して適宜実施 課題：国・県・市町村委員会を通じて国民スポーツ大会開催地を積極的に支援し、円滑な大会運営が可能となるよう、国・県・市町村の体制を強化する必要がある。		
	国民スポーツ大会開催関連事業	セールに貼付する県名・県番号の販売助託	・「見える団体」、「見せる団体」の推進		2023年7月～ 9月	green	県名・販売 123枚 県名販売 123枚 課題：セールへの県名表示は、一般観客もわかりやすいセーリング競技とするために必要不可欠であると判断しているが、広告規定との関係を整理する必要がある。		

活動領域	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
k/n	強化対象選手・NT-A/NT/シニア強化選手・Paris2024代表選手の海外大会派遣	海外主要大会(Princess Sofia杯、スウェーデン・シゴタ、47国選手権予選他)への派遣		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	Princess Sofia杯は代表選手大会、47国選手権予選については代表決定大会の規模最大として受け付け、派遣を行った。しかし、スウェーデン・シゴタにおいて、予選大会の規模が大会代表選手大会であったため、ルー・ル・ア・フランス・スタグを派遣しに行きたくはなかった。同大会に対しては2つの国で2種目を準備し、代表派遣した。2025年3月・4月のseason challengeに1人参加し、同大会に比べて多くのチームを海外派遣希望として派遣を申し、以降の強化に向けた課題を定めていくことを決めた。
k/n	強化対象選手・NT-A/NT/Paris2024代表選手に対する直前直前強化合宿の実施	NT-A/NT/Paris2024代表者のチームと組む練習試合(フーカス・ス・チーム強化の直前直前強化合宿実施)	Paris2024での入賞、1種目以上のメダル獲得	各大会の成績、合宿レポート	別添の通り	Green	各代表チームと練習試合を実施し、チームのニーズに応じた最終練習を行った。特に、47国予選において、チームを4チームに別れて、それぞれに強化の方向性を示した。結果としては、1人A2023に代表選手として、次年度大会に向けた動きを加速させた。
k/m/n	強化対象選手・NT-A/NT/Paris2024代表選手に対する直前直前強化合宿の実施	代表選手とチーム・メカニズム強化において実践を行い、環境を整える。具体的には、練習コーチ・コーチを派遣し、宿泊施設の問題と地元地産品からチームの人生を学ぶ(詳細は別添参照)		遠征報告書	2024/7/8	Green	各項目について準備は順調に進められた。特に、遠征での宿泊環境確保を行ったことで、各項目の準備がよりスムーズに進んだ。また、大会が予定通り進められたことが確認された。結果として、強化に向けた課題を定めていくことを決めた。
k/m/n	Paris2024本大会での代表チームサポートの実施	タス・ベッティの支援と練習、ルー・ル・ア・フランス・スタグのサポートメンバーをアサインし、本大会期間における各大会サポートの実施(詳細は別添参照)		遠征報告書	2024/7/7月	Green	本大会期間中においては、コーチを各チーム・グループに1人ずつ派遣して強化を支援した。また、大会の準備がよりスムーズに進んだ。また、大会が予定通り進められたことが確認された。結果として、強化に向けた課題を定めていくことを決めた。
l/n/p	HOPE育成プログラムの計画・実施	HOPE選手を対象とした、セーリングスキル及び人間力の向上を目的としたHOPE育成プログラムを実施(詳細は別添参照)		各大会の成績、合宿レポート	1週間〜10日	Green	計画通り進め、認定選手を念頭に置いては大規模なアップデートを行い、2025年1月以降に実施する。2025年3月からは強化対象選手、国際大会での成績を向上させる。
n/p	強化対象選手HOPE選手の海外大会派遣	HOPE選手の海外主要大会(Sailing Youth World Cup、World等)への派遣	次世代有希望選手の継続的な輩出、A2029を目標と見据えSailing Youth World Cup、World等のメダル獲得を目指す。2024年度はSailing Youth World Cupにて優勝目標とする人を見極める予定	各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	Yellow	派遣については準備は順調に進め、ユース・ワールドカップのHOPE選手が派遣予定である。また、大会が予定通り進められたことが確認された。結果として、強化に向けた課題を定めていくことを決めた。
l/n/p	強化対象選手HOPE選手との個別合宿・大会での指導支援	選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	2024年度は強化対象選手、引継ぎ選手との個別の課題にフォーカスをして強化を支援した。結果として、強化に向けた課題を定めていくことを決めた。
k/m/n/m	NT-A強化合宿と連携強化	HOPE育成プログラムと並行、各強化対象選手に対して、NTA及び各強化合宿との連携強化を実施	各強化対象選手の指導を支援した。強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	合宿レポート、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	NTA強化合宿との連携強化、強化対象選手との個別の課題にフォーカスをして強化を支援した。結果として、強化に向けた課題を定めていくことを決めた。
k/m/n/m	練習用HOPE育成プログラム用機材の充実	装置に接続したコンピュータ等が遠征先でも利用可能となる機材を充実、強化合宿への遠征練習や自前の練習環境を整え、海外大会での強化を実施	各強化対象選手の指導を支援した。強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	合宿レポート、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	2024年度は強化対象選手、引継ぎ選手との個別の課題にフォーカスをして強化を支援した。結果として、強化に向けた課題を定めていくことを決めた。
k/m/n/m	強化選手の充実	HOPE育成プログラムを通じて、外務・コーチ、トレーナー、栄養、メンタル、ルー・ル・ア・フランス・スタグ等の各分野のスタッフに付く、更なる成長を行う	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	大会開催日程の通り	Green	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等
n/p	海上・陸上における各強化対象選手への強化・強化プログラム	競技特性の強化に目をし、各種水上練習・フィジカル強化の測定・個人別課題設定の実施	科学的知見の積み込み・分析による合理的な強化施策の実施	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	大会開催日程の通り	Green	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等
k/m/n/m	事務体制の強化	事務体制の強化と連携強化、手帳と連携強化(詳細は別添参照)による体制の再構築を行なうこと、個人化・個人化の徹底、コミュニケーション強化(詳細は別添参照)	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	大会開催日程の通り	Green	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等
h/l	パブリック・メディア・コンテンツを活用したマーケティング施策の立案・実施	JFA強化選手との連携、強化選手とのアクティベーション活動の実施、有希望選手とスポーツキャリアセンターとのマッチングの促進等	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	大会開催日程の通り	Green	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等
k/n/p	強化対象者の共有、HOPE育成プログラムの外部関係者向け入札への参加	HOPE育成プログラムで認定された練習指導資料のクラウド化での公開や合宿への外部指導者の参入を促進し、強化プログラムの効果向上を図る	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等	大会開催日程の通り	Green	強化対象選手に対する強化の策定と進捗状況の把握と実施状況、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での指導支援等

ユニエースアカデミー委員会 委員長 中村 公俊						
重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価 目標と実績との比較、次年度への課題等
a.f	ユニエースセーリング・シーマンシップアカデミー	テキストの発行及び配布	海やセーリングへの興味・関心の拡大	配布数	適年	Green 開催地の選手・指導者・関係者に広く配布
f.h.i	ユニエースセーリング・シーマンシップアカデミー	アカデミーコーチバンクの構築	人材の育成及び活用	登録者数の増減	適年	Green 今年度新たに4名の指導者を追加
f.h.i.j	ユニエースセーリング・シーマンシップアカデミー	アカデミーコーチの全国派遣	シーマンシップの普及及び経験の共有	全国15か所へのコーチ派遣完了	適年	Green 計画通り全15回実施完了

年度活動	活動名称	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	大学対抗U23J30分マラソンの開催支援	大学対抗U23J30分マラソン2025開催に向けた支援活動	ユース世代のキールボート競技者の精神拡大	参加選手60名、参加ボランティアスタッフ15名	2025年3月	Green	12チームが出場し、大会が滞りなく開催された。開催支援を継続する。
e	FISU世界学生選手権大会へのJSAF代表チーム選考及び参加支援	イタリア・ガルダ湖で開催予定のFISU世界学生選手権大会へのJSAF代表チーム選考及び参加支援	ユース世代のキールボート競技力の向上	38人入賞	2024年6月	Green	日本代表チームを大会に派遣し、16チーム中12位の成績を挙げた。
e	グローバルチームズリーグの日本開催に向けた企画・調整・準備	グローバルチームズリーグ2025日本開催のための企画・調整・準備	次期オリンピック競技種目の有力候補であるチームレースの競技性向上および選手強化	大会運営委員会の設立	2024年6月	Red	当該大会の日本開催を遂げた。
e	グローバルチームズリーグアジアへのJSAF代表チーム派遣	イタリア・Real VC主催のグローバルチームズリーグ2024へのJSAF代表チーム選考及び参加支援	次期オリンピック競技種目の有力候補であるチームレースの選手強化	38人入賞	2024年10月	Red	JSAF代表チームの公費に恵まなかった。

第6次等学修委員会 委員長 中村 隆夫							
重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
						Green	
						Red	
						Green	

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
セーリング普及拡大事業	外洋船のセーリングへの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。	セーリング愛好者を増やし、組織の拡大強化に資する。	セーリング取得艇数	通年	Green	1 船主登録数 771艇（115才） 2 選手会員数 404名（10才） 3 乗組員数 1,012名（10才） 4 乗組員クラブで試行。これ以降につなげる基盤が出来た。	
	セーリング普及拡大に合わせ、各地のヨットクラブや泊地での安全・ルール関係の活動を支援する	全国各地でのセーリングの安全、ルール遵守の強化をはかる	開催実績	通年	Green		
オンショアレース支援と世界選手権派遣事業							
	2032プリズン五輪を目指す世界選手権に選手を派遣する。（国内選手レース開催を含む）	2032五輪を狙える選手の育成強化	派遣実績	通年	Green	5月に外洋ダブルス日本選手権開催。日本代表をワールドに派遣。	
	JSAF兵衛同様の外洋レースを支援し、世界レベルのレース開催と世界で戦える選手を育成する	2032五輪や世界選手権、世界レベルの外洋レースで活躍できる選手を育成していく	開催実績、	5月	Green	外洋ダブルス日本選手権、沖縄東海レース等	
	2032プリズン五輪での外洋レース復活に向けて、World Sailingの外洋アドバイザーボードとの連携強化を図る	World Sailingの2032プリズン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略幅広い参加を図る	連絡調整状況	通年	Red	所望もWorld Sailing関係者に連絡したが、反応がなかった。	
	2032プリズン五輪での外洋レース復活に向けて多くの外洋レースに、ダブルハンド・ナビジョンを規定し、オンショアレースのための資格格別、サバイバルトレーニングなどのトレーニング、通信基盤などの整備、産業を推進する。	World Sailingの2032プリズン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略と国内各団体との連携強化を図る	全日本からクラブレベルまでのダブルハンド選手育成	通年	Green	沖縄東海レースはじめ、多数のレースにダブルハンド、シュートハンド・ナビジョン選手を派遣し、選手育成を図る。	
	加盟団体・特別加盟団体等との関係強化事業	世界レベルの選手育成のためのスキル向上		通年	Green	オーストラリア選手権、オーストラリア選手権、オーストラリア選手権	
	外洋加盟団体長会議を年2回開催し、意思疎通を強化する	加盟団体との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	9月、1月	Green	2回実施、食会場とWEB併用で参加者増	
	外洋常任委員会を開催する。（年2回程度）	外洋系各組織との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	通年	Green	6回実施、食会場とWEB併用で参加者増	
	外洋船の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会活動を支援する。	レース運営、ルール、安全、計測等技術的レベルを全国的に向上させていく	会議実績	2月	Green	支援した	
	ヨットクラブ、泊地のグループ等との連携	ヨットクラブ等との連絡・連携の強化を図る	連絡実績	通年	Green		
外洋船の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	外洋船の安全確保、安全情報の交換、救助関係組織との連携強化	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく					
	ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望する レースでの安全確保の指導	船舶検査、免許制度、通報等をヨットに合うよう改善するための活動	活動実績	通年	Green	国土交通省、海上保安庁と随時連携。小型船舶検査機構評議員等に派遣	

		サバイバルトレーニング、医療トレーニングの推進	外洋セーラーの安全確保のためのスキル向上	開催実績、		Green	4回開催　41名受講
		万が一のための主催者保険加入	レース主催の安全確保			Green	主催者保険を過年実施
	海洋環境保全普及事業						
		海その愛基金事業とコラボしての海洋環境保全、普及啓発を進める	海洋環境の状況を調べその保全、状況を子供達や市民に啓発していく	活動実績	過年	Red	今年は海その愛基金とのコラボは無かった。海その愛基金委員会自体が休眠状態。
外洋計測委員会 委員長:川倉 紀行							
重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
gJ	レーティング証書発行	・IRC/ORCの計算の実施 ・提出された計算データの確認、必要に応じて問い合わせ・修正 ・IRCデータのRORCへの送付、証書データの受取・内容確認 ・ORC証書の作成・内容確認 ・証書の郵送	レーティング証書の適正化	証書発行枚数IRC340枚、ORCSS枚	過年	Yellow	IRC282枚（2024年間）、達成率83％ ORC54枚（2024年度）、予想達成率98％ 一部の普及を目指すとともに、確実な更新を促すことが課題
h	証書発行データ管理	・証書データの管理、データ・ストレージの管理 ・証書受付、管理表作成、請求書発行、再請求発行	データ資産の保全と利活用性の向上	再請求チェック3回/年	過年	Green	約3か月毎に再請求を実施 今後も定期的な未収対策を継続
gJ	レーティングシステム普及	・レーティングの適正な運用のため、IRC/ORCのセミナーの実施 ・合同委員会会議を年内開催し、最新情報の周知を行う ・船主と船客の両方から情報の提供の支援	公式レーティングのレースの普及と質の向上	合同委員会での周知、TC派遣	過年	Green	ミニトン金日本へのスタッフ派遣の実施
i	規則等の管理・運用	・HPの管理、随時更新 ・最新のマニュアル等を練習資料の翻訳・作成	会員の最新情報へのアクセス向上	日本経路規則、2025年料金表、HP更新	過年	Green	ルール改正、解釈のポイント等を合同委員会会議で周知
h	計測機器の管理	・重量計等の委員会所有の計測機器使用の受付管理、配送 ・定期的なキャリブレーションの実施	機器の精度維持	キャリブレーション1回/年	過年	Green	機器発送済、キャリブレーション待ち
g,h	計測技術の継承	・計測実践のレベルの維持・向上のための講習会の開催 ・計測実践のノウハウの資料化(画像や文書)	計測精度の向上	計測実践講習会の実施	2025年2月	Green	2025年2月東京、関東で開催 IRC49名、ORC19名受講
h	国際会議への派遣	・ORCコンGRESSへの委員の派遣 ・ORCコンGRESSへの委員の派遣	国際標準への適応	会議報告書	2024年10月	Green	IRCコンGRESS（2024/10ノバイ） ORCコンGRESS（2024/11シンガポール）
h,i	外洋計測委員会会議	・外洋計測委員会会議の開催 ・レーティングに関する解釈・解釈の通知文等の作成	国内での運用上の課題の解決	会議録、各通知文	過年	Green	月例会議オンライン開催 会議録、通知文の公開

外洋安全委員会 委員長 平田 隆

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	事業1)委員会基本活動						
	委員会議議	委員会議および以下事業の実施に関わる議論と方針・行動の決定を行う	OSRへの理解、安全規制の普及と促進 最終的に、安全航行に資する意識の向上	議事録	通年	Green	必要性に応じて実施判断できた。F2が開催無し。
h	WEBサイトの維持・管理	委員WEBサイトにOSR改訂や安全週間およびその他の連絡事項を掲載し、維持・管理する	OSRへの理解、安全規制の普及と促進 最終的に、安全航行に資する意識の向上	WEBサイトコンテンツ・閲覧数	通年	Green	定期的なWEBサイト更新とSNS発信を実施。
	事業2) 外洋特別規定 (Offshore Special Regulations: OSR)普及						
h	1. OSR日本語翻訳版の発行と国内諸定制定	*日本語翻訳版の発行 *海運課や安全	OSRへの理解、安全規制の普及と促進	OSR日本語翻訳版	1月・2月	Green	計画通り実施
j	2.OSR解説講習会	OSR解説講習会の実施および講師派遣	OSRへの理解、安全規制の普及と促進	受講者数	2月	Green	24年度は要請無し
j	3.OSR解説	SNSなどを利用したOSRの内容解説	OSRへの理解、安全規制の普及と促進	SNSフォロー数	通年	Green	SNSフォロー数は増加、25年3月時点で1167人
事業3)安全航行啓蒙							
j	1安全週間	安全週間は春と秋の2回/年/設け、忘れがちな直接啓蒙や委員の訓練等の実施を呼びかける	事故防止、安全航行に対する意識の向上	事故発生件数	4月、10月	Green	24年度は事故報告件数0
j	2安全講習会への講師派遣	加盟国体からの依頼に応じて安全講習会へ講師派遣	事故防止、安全航行に対する意識の向上	受講者数	要請に応じて	Green	24年度は要請無し
j	3安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ	国内未認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用できるように働きかける	セーラーの安全性の向上と活動費用の低減	—	通年	Green	実施無し
j	4「全国海難防止強調運動」の実行委員	日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員を務める	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	—	通年	Green	WEBサイト掲載とSNS発信を実施。
j	5乗船報告会	外洋海難防止の事故数や事故の内容を統計・分析、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめ、必要に応じてJIS委員会、海運会、JISに報告	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	—	通年	Green	24年度は事故報告件数0
事業4)外洋関係者会議・合同委員会							
h	外洋関係者会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる情報収集および発信を関係者会議にて実施	外洋レースの運営・計測・安全に関わる情報収集および発信	—	9月	Green	青原島にて実施（オンライン参加）
h	外洋関係者会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる規則のポインタや改定案の解説・共有・議論を合同会議にて実施	外洋レースの全開港一化とレース主催者（加盟国体）のスキル向上	—	2月	Green	青原島にて実施（現地参加）

通商委員会 委員長 山口 誠樹

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
g,h,i,o	海岸局維持事業	既存のJSAF海岸局の今後の海岸局のあり方の提言を策定	海岸局の今後数年間の運営方針を策定	現状報告書および運営方針計画	通年	Green	みさきヨットに加え、おおしまヨットおよび九州2局のヒアリングを実施済み、運営方針の策定を進め
g,h,i,o	海岸局維持事業	VHF無線局免許状更新時の海岸局加入証の取り扱い方法について、関連する地方総合通信局と協議し、手順を改善	無線局免許状更新時の海岸局加入証更新の促進	海岸局加入証更新実績の比率向上	通年	Green	関係総合通信局と打ち合わせを実施、免許更新時の手順の改善をお伝えした。決まりに引継ぎ請求を計画中
g,o	オフショアレース支援事業	JSAF共同主催の外洋レースの適応環境およびレーストラッキング環境の整備を支援	世界レベルの外洋レースを適用する適応環境の知見の獲得	開催実績	通年	Green	外洋レースに初めて最新の情報を収集、同時にジャーナリストやプロットレースなどの海外レースで使用された機材、運用方法の調査を実施、外洋合同会議で共有を行った
i,o	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の促進	外洋艇の安全確保、プレジャーボートの無照局との安全情報の交換、海上特殊無線技士免許の習得	内洋レース、内洋セーリングの安全を強化していく	開催実績	通年	Green	日本マリン無線協会が関する広域連携ネットワーク海岸局との連携が可能か、引き続き計画中
i,o	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の促進	ヨットに不備ない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望	適応環境をヨットに合うよう改善するための活動	開催実績	通年	Green	関係総合通信局と現状を確認、計議を進める。
i,o	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の促進	海上適応環境の最新情報の取得	メーカーや無線関係団体との関係を構築し、無線環境の進化に対応する準備を行う	開催実績	通年	Green	船内ネットワークは、船内で確認できるの環境提供および艇材の買出しなどを支援、関係機関を行った。また、PLBの誤発信に対する情報収集、執行する際の留意点を

パワー・リング委員会 委員長 佐藤 公孝

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
o	全日本大会	インターシップセーリングにおける国内のランキング対応大会。次年度のパワーセーリング強化選手の選考レースを兼ねる(JSC/J助成)	国内普及および次年度強化選手選考レースの位置づけ	参加者26人、関係者60人	10/18～20	Yellow	参加者は25年で昨年を40%下回った 次年度は参加者を増やす事が課題
	西日本大会	インターシップによる西日本地域での大会(JSC/J助成)	国内（地域）大会開催による技術力向上促進と普及	参加者20人、関係者40人	8/24～25	Green	参加者は20年で昨年を30%下回った 次年度は参加者を増やす事が課題
g	指導育成講習会	パワーセーリングの取り組み、インターシップの理念、国際大会の心構え、技術、ルール等を網羅したセミナーを各分野のトップコーチを招いて学ぶ(JSC/J助成)	全国各地でインターシップ理念を理解し、安全性や技術を持った指導者を育成して普及につなげる	江の島会場参加者20人 高松会場参加者10人	11/9 11/17	Green Green	2会場での参加者は30人を超え、予定通りに集まった 次年度は参加者を増やす事が課題
	ブラインド全日本大会	視覚障がい者によるキールボートレースの全国大会(JSC/J助成)	国際大会（2年に1回）に向けた技術力向上と普及	参加者40人	10/25～27	Yellow	選手参加が20年以降に留まった 次年度は開催無し
o	強化選手西日本大会遠征費補助	24年度強化選手の大大会出場のための遠征費(JPC助成)	遠征補助により、強化選手の継続的大大会参加を促すと共に、愛好家らの競技志向を高める	強化選手4名+スタッフ1名	10/24	Green	遠方への参加を促進、競技力向上に役立った 次年度の補助は未定
o	強化選手全日本大会遠征費補助	24年度強化選手の大大会出場のための遠征費(JPC助成)	遠征補助により、強化選手の継続的大大会参加を促すと共に、愛好家らの競技志向を高める	強化選手4名+スタッフ1名	10/19	Yellow	海外大会と日程が重なり、強化選手の参加が2名に留まった 次年度の補助は未定
o	強化選手レベルアップ会合	24年度強化選手の大大会に向けての技術力向上会合(JPC助成)	国内大会で一定の成績を収めることで強化選手のレベルアップおよび国際大会へのモチベーション向上につなげる	強化選手4名+スタッフ1名+現地ボランティア5名	7/6	Green	広島県での場外主催者予備を上限に参加数、成果があった 次年度はさらに技術力向上につなげる
o	海外遠征事前国内練習	海外大会（10月・英国）への派遣が決まった選手の事前練習(JPC助成)	国際大会で好成績を上げることにより、競技の普及および次年度のJPC助成金獲得を目指す	強化選手2名+ボランティア	8/27	Yellow	予算、時間に余裕がなくオンラインにて複数回実施 次年度の開催は未定
o	海外レース選手派遣	10月の世界インターシップ世界選手権への選手派遣（JPC助成金）	強化選手の国際大会出場を支援することで、競技の普及および強化成績につなげる	強化選手2名+スタッフ1名 メダル獲得	9/30	Green	選手4名、スタッフ2名を派遣。入賞以上を獲得 次年度は3位以内が目標
o	海外レース選手派遣	9月のアジアパシフィック選手権への選手派遣（JPC助成金）	強化選手の国際大会出場を支援することで、競技の普及および強化成績につなげる	強化選手1名 メダル獲得	9/30	Green	月別選手がハンザ2023インターシップ部門で優勝
o	海外PDF指導者派遣	24年度ワールドセーリング開催のIDPに指導者を派遣する（WSからの支給）	世界レベルでの指導者育成	指導者2名	10/29	Green	かなり高度な指導内容であった 次年度も派遣予定
c	ハンザ観戦イベント	安全なハンザ船使って、初心者も子供も高齢者も障害者も一緒に同一プログラムでセーリング体験を実施(日本財団海防)	セーリングの普及、新規パワーセーラーの発掘	参加者10～15人	8～10月	Yellow	パワーセーリング体験参加者15名 次年度は参加者を増やす事が課題
c	ブラインドハンザ大会	安全なハンザ船使って、ワンクル乗艇のブラインドセーラーによるレースを実施（ゴールドマン助成金）	ブラインドセーリングの普及	参加者6人	11/1～2	Yellow	次年度は参加者を増やす事が課題
c	メディアデー開催	乗艇の報道機関等を招待し、パワー・インターシップセーリングを記者に体験してもらう（経営企画室関係）	報道機関の理解促進	参加者30名	12/15	Green	メディア関係者4名、インターシップ体験参加者17名、スタッフ26名、合計47名で開催 次年度は開催無し
c	配布用媒体作成	パワー・インターシップセーリングの広報室活用資料作成(経営企画室関係)	パワー・インターシップセーリングの理解促進	配布用媒体 寄付金・助成金募集	2024/11～ 2025 配布開始	Green	一般向けチラシ2000枚、ポスター10枚作成。関係団体、関係者12か所に配付済み 次年度も配付継続
-	広報素材作成	パワー・インターシップセーリングの写真や動画を撮影(経営企画室関係)	パワー・インターシップセーリングの理解促進	参加者5名	-	Red	予算が取れず実行できなかった 次年度は作成予定

eSailing委員会 委員長 馬場 俊子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
acf	Steering the Course(PR・普及事業)	Steering the Course期間にVTR紹介と体験会(シデース委員会連携)	艇が「観られる環境」の紹介	参加者50名	2024年5月	Green	8月開業「インター」でeSailing大会に向けてVTRは未実施だった 関係者から「eSailing」に興味をもち、eSailing大会が実現、次年度は世界の選手権に初めての大々的に参加してみたい、が、女性、将球の状況開拓者セーリング体験を始めるe-sportsとして 目標20,000からの「オープンエントリー練習会」を①20,000②20,15③20,30の3レース開催
acf	eSailing練習会・体験会(PR・普及事業)	オープンエントリー練習会	体験、練習機会の提供、ツールとしての紹介	参加者：1回最大19名x3レース	通年	Green	1月に開催され3位決定戦で勝利し日本チームは昨年を引き続き3位。 eSailing World Championship 2024が12月に開催され、グランドファイナルに2名進出。3位入賞。選手自前、バルトヘグマガジンさんの協力もあり、その他SNSでの情報発信を行ったが、結果の発信比重が大きい。開催時期変更や対戦国との調整で事前の紹介やPRが難しいが、広報委員会と連携し次年度は事前の発信を工夫していく。
hi	全日本(Japan cap)開催・運営(普及・強化事業)	全日本(Japan cap)開催・運営	日本でのハイレベルな大会開催	参加者60名	2024年8月	Green	3/ZZZ/23で体験会、船介を実施。学生の乗艇者も多く、高校生・大学生の参加者が多かった。会場にもクルーワークの会合に体験いただき、オンライン、オンラインで実施、オンライン、オンライン、冒険ヨットをやっていた。チラシを配っている一般の方への紹介を含め既知の環境に体験、紹介を実施した。eSailing「レース」ヨットの
hi	ネーションズカップ支援(普及・強化事業)	ネーションズカップ支援・選手の活躍記録、紹介によるPRネーションズカップにNFとしての手段	世界大会での活躍紹介と活動支援	ベスト8以上を指す	2024年10月	Green	
acf	オンラインイベント大会・体験会(PR・普及事業)	2025年3月ポートショー等体験会実施	新たなセーリングファン層の拡大	1回10名程度の入れ替わり	2025年3月	Green	